

令和 7 年 2 月 21 日

教 育 長 様

研究コース	代表者	校 園 名 :	大阪市立墨江丘学校	
A グループ研究 A		校園長名 :	進藤 文代	
校園コード (代表者校園の市費コード)		電 話 :	6674-3612	
732665		事務職員名 :	颯田 涼介	
選定番号	A144	申請者	校 園 名 :	大阪市立墨江丘中学校
			職名・名前 :	首席 木下 祐介
			電 話 :	6674-3612

令和 6 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 5 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究 A	研究年数	継続研究 (2 年目)
2	研究テーマ	子どもたちの「心」に寄り添い、未来を生き抜くための教育活動の実践			
3	研究目的	1. コロナ禍も 3 年を終え、通常の学校生活が戻りつつある中、これまで様々な制限がある中で過ごしてきた子どもたちの心に焦点をあて、今後の人生を生き抜くために、教職員がどのような形で寄り添い、関わっていくべきかを考える。 2. 過去の自然災害や事件等において、事象後の 3 ～ 5 年後に PTSD の発症や、過度のストレスからの不登校や問題行動の急激な増加が起こっていることに着目し、発生当時に最前線で関わってきた方や現地の有識者や専門家に学びを受け、大阪市の不安を抱える子どもたちへの向き合い方を考えるきっかけにする。 3. PTG (心的外傷後成長) の視点にも注目し、心の成長、レジリエンスについて専門家を招いた特別研修や現地視察を行い、子どもたちの心の成長と未来を生き抜く力を後押しできるようにする。 4. 令和 6 年度に不登校特例校が設置されることにもつなげ、課題のある子どもたちに対して、学校・家庭・地域が今後どのように連携し、子どもたちに関わっていくかを考えるきっかけにする。			
4	取り組んだ研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。(MS Word 9.5 以上) 1) 現地での学び (視察) ○災害発生時における対応と心のケアについて (石川県視察) (10 月) 2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震の被災地 (石川県珠洲市・穴水町) を訪れ、現地の状況や当時の様子を伺った。珠洲市では自宅の寺が全壊する被害に遭われた大句わか子先生にお会いし、被災地の状況を案内・説明していただくとともに、災害発生から現在までの様子を伺った。また穴水町立穴水中学校では、校長の廣澤孝俊先生から災害発生時の学校・教職員の対応、学校再開にあたっての子どもたちの関わりや心のケアについて、話を伺うことができた。 ○体験を通して子どもたちの心を育む教育活動 (愛媛県視察) (2 月) 「命をつなぐために、生きることの本質を問い、実践する」という建学の理念を掲げ、昨年 4 月に開校された FGO 治高校里山校を訪れた。体験を通して子どもたちの心を育む教育活動の紹介や、探究や教科の授業の様子を見学させていただいた。 2) 体験を通した心の成長 (取組) ○避難所体験学習 (11 月) もし大阪で大きな災害が起こった際に、中学校が避難所になることを想定し、テント設営や炊き出しの体験、避難所運営のワークショップや防災に関する学習会を行い、災害に対する備えや命の大切さについて考えるきっかけにする取組を行った。2 日間の活動を通して子どもたちの心が変わり、もし災害が起こった時には自分から率先して活動にあたりたい。今ある幸せを感じて 1 日 1 日を大切に生きたい、周りの大切な人たちに感謝の気持ちを伝えたいなど、今後生きていくなかで大切なことに気づくことができていた。 ○地域のボランティア活動への参加 (月 1 回) 2 年生を中心に、地域が主催する寺子屋・子ども食堂ボランティアに参加し、自尊感情や自己肯定感を高めるとともに、地域に貢献できる人材育成に努めた。また地域の防災訓練やワークショップにも積極的にに関わり、子どもたちが地域を愛し、地域を守っていく意識を持てるように促した。 3) 子どもたちの心を動かすきっかけ作り (特別講話・映画上映) ○東日本大震災を経験した有識者の『生の声』を聴く (11 月) 昨年に続いて元宮城県石巻西高校校長の齋藤幸男先生を講師としてお越しいただき、災害に対する備えや心のケアについて紹介していただき、生徒への防災意識の向上、今後の学校生活や卒業後に向けて自ら考え行動するきっかけを作っていた。また今年度は 2 年生を対象に《災害発生時の課題と対応》についてワークショップを行い、自分ごととしてどう考え行動すべきかを学んだ。 ○ドキュメンタリー映画の上映会 (2 月) 幼い頃に両腕を失くし、口筆画家として生きた南正文さんと、その師で同じく両腕を失った大石順教尼の生きざまを通して、人の命の力強さを描いたドキュメンタリー映画「天から見れば」の上映会を行った。生徒・保護者・地域住民を対象に行い、命の大切さや生きる意味について考えるきっかけにしてもらった。			
5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表会等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。			
	日程	令和 7 年 2 月 19 日		参加者数	約 30 名
	場所	墨江丘中学校 多目的室			
	備考				

6	成果・課題	<p>大阪府教育振興基本計画に示されている、子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果１】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>他府県の視察において、経験者・有識者の意見を受け、自校の教職員に学びを発信し、大阪市の教育活動に役立てる</p> <p>《検証方法》</p> <p>教職員研修においてアンケートを作成し、今後の教育活動の参考になったという項目で肯定意見を８０％以上にする</p> <hr/> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>教職員研修では防災教育や心の教育の必要性について伝え、肯定的な意見をいただいた。石川県視察では能登半島地震発生時の学校・教職員の対応について話を伺った。特に生徒の安心・安全の確保や学校再開後の心のケアについて学びを受けた。南海トラフ巨大地震も想定されるなか、自分ごととして教職員が防災意識を持ち、日頃からの安心・安全確保と、発生時に生徒の心に寄り添い、関わり続けることがいかに大切かを改めて感じた。愛媛県視察では探究や体験を通して生徒の心を育むことの重要性について学びを受けた。日頃の教科指導から探究の要素を取り入れ、知識として頭で学ぶのではなく、心と体で体験させる。まずは自分でやってみて、経験知を身に付けさせることが重要であると学んだ。大学入試においても総合型選抜の試験が増えているなか、中学校から探究の要素を取り入れることや、体験させる取り組みを積極的に行っていくことが必要だと感じた。</p> <p>【見込まれる成果２】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>コロナ禍で子どもたちが抱えてきた不安やストレスを検証し、教職員全体で学年取組・学校行事を通して実践を行い、心のケアや成長を促していく。</p> <p>《検証方法》</p> <p>事前・事後にアンケートをとり、事後アンケートの際、事前アンケートより肯定意見、評価を８０％以上向上させる</p> <hr/> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>昨年度に比べて「不安な気持ちになってしまうことがある」「イライラしたりかっとなったりしてしまう時がある」という質問項目において減少傾向が見られた。各学年で探究学習や人権学習など、子どもたちの心を育む、大切にしている教育活動を行った。その中で文化発表会や体育大会等、学校全体の行事に全力で取り組む生徒の割合が増えたと感じている。課題としては不登校生徒が在籍しており、登校できない理由も様々で、今後の方針やアプローチについて教職員全体で考えていく必要がある。その一方で「人の役に立ちたいと思っている」等の項目において、肯定意見が昨年度の90%から95%に上昇しており、ボランティア活動への参加など積極的に活動できる生徒が増えている。今後も子どもたち自らがやりがいを感じて取り組む教育活動を持続発展させ、学校全体に前向きなムードを作っていきたい。</p> <p>【見込まれる成果３】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>心のケアや不登校対策、命の大切さについて有識者や専門家を招き、研修や講話を通して生徒・保護者・教職員の意識を向上させる</p> <p>《検証方法》</p> <p>感想用紙において、肯定的な意見・感想を８割以上にする。生徒・教職員研修に関しては今後の教育活動につなげることができたか報告会を通して検証・報告する。</p> <hr/> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>東日本大震災を経験した有識者を招き、命の大切さや心のケアについて講話をしていただいた。生徒・教職員ともにほぼ全員から肯定的な意見・感想をいただいた。今年度は講話だけでなく災害発生時の課題と対応についてのワークショップを行うことができたことで、命の大切さだけでなく、今後の備えや発生後にどう行動するか、どんな配慮が必要かを学ぶことができた。ドキュメンタリー映画の上映会では、主人公の妻に来ていただき、教職員とともに子どもたちに命の大切さや生きる意味についてディスカッションを行った。感想ではこれからの人生へのエールをもらえた、辛いことがあっても前向きに生きようと感じた等、感銘を受けた方が多かった。実際に経験された方の生の声や姿が、命や心について考えるきっかけになったと実感した。今後も命や心を育むことをテーマに、生の声や映像にふれる機会を作っていきたい。</p>
---	-------	--

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果 4】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>リーダー育成研修や避難所体験学習を通して、生徒自らが今後の教育活動や学校生活に自主的に取り組むようになっていく。</p> <p>《検証方法》</p> <p>終了後の感想やアンケートで生徒の心がどのように変化したか、今後に向けてどんな活動ができるかを考えさせる機会を作り検証する</p>
		<p>〔検証結果と考察〕</p> <p>避難所体験学習では生徒会・防災リーダーが参加し、2日間で様々な体験活動を行った。参加後のアンケートでは、「もし災害が起こった時は、自分から率先して活動にあたりたい。今回のことを他の友だちや家族に共有し、少しでも災害についてみんなで考えたらいいなと思った」「家で寝れること、勉強できる環境が当たり前ではないからこそ、今ある幸せを噛みしめながら、1日1日を大切に生きようと思った」「日頃からお世話になっている方々への感謝の気持ちを忘れず、ありがとうときちんと伝えられる人になりたい」など、大変前向きな感想があり、子どもたちの心が大きく変わったと感じた。今後も命を大切に、当たり前前の日常を見直す体験活動を企画・実践していきたい。</p>

		<p>【研究全体を通じた成果と課題】 研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。</p>
		<p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>東日本大震災発生から3～5年後の子どもたちの心の変化について調べていく中で、3年間続いたコロナ禍の様々な制約も同じように影響するのではないかと考え研究を行った。不登校生徒の増加や心をふさぎこんでしまう生徒の増加において、いかに人と人とのつながり、その中での対話や心を動かす教育活動が大切かを学ぶことができた。教育環境の改善が求められている中、目に見える環境だけでなく、システムや教職員の意識改革など目に見えない部分での意識・改善が求められている。多種多様な学びを構築するだけでなく、問題なく登校できている生徒にも様々な悩みや不安を抱えていることを常に意識しながら、生徒一人ひとりの心に寄り添い、関わっていくことが大切であると感じている。そのためには学校だけでなく、保護者・地域も一体となり様々な視点から教育活動を行うことが必要不可欠だと感じた。次年度も研究・実践を重ね、気づきや学びを形にし、発信していきたい。</p>
		<p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>今年度は能登半島地震が発生したことを受けて、子どもたちに命を守る、大切にすることを目的とした、命の教育・防災教育に重点を置いた。今年度は講話を聴くだけでなく、実際に体験することに重点を置き、ワークショップや避難所体験学習等、子どもたちが命を大切にする、日常の見直しについて考える機会を作ったことで、より学びが深まり行動が変わることにつながった。また命を守る・大切にすることを視点から、全校集会や避難訓練の際に講話やプレゼンを行ったり、防災教材を使った学習会、地域の防災リーダーとの合同避難訓練、ドキュメンタリー映画の上映会を通して、教職員・保護者・地域住民に対しても命の大切さや生きる意味について考える機会を作った。また体験学習や先進的な活動を取り入れている高校を視察し、今後の教育方針のヒントを得ることができた。先行きの見えない中で、今後も命について真剣に向き合い、考えるきっかけを作っていくのと同時に、子どもたちの心が変わる体験や取組を企画・実践し、未来を生き抜く人材を育てる教育活動を展開していきたい。</p>
		<p>3. 継続研究（3年目）</p>
		<p>《代表校園長の総評》</p>
		<p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>東日本大震災での教訓と経験を風化させないためにも、これから訪れるとされている「南海トラフ地震」に対しての意識と備えに対する研究、予防教育が行えた。特に本校では「いのち」をテーマに対する取り組みの中で社会問題となっている「自死」について扱う背景として「防災」で自分に対する「いのち」他者に対する「いのち」について考える取り組みを行った。有識者、経験者の言葉は重く、生徒の心を動かす時間となった。さらに、人権教育と絡め、人権防災、人権いのちの教育をテーマに本市の課題解決に向けて、模範となる教育活動の展開を今後推進していきたいと考えている。</p>
		<p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>「いのち」をテーマに、防災教育では石川県珠洲市を視察し、被災地の現状と災害発生時の学校・教職員の対応、子どもたちの関りや心のケアについて学んだ。その成果を生徒が地域・産官学と連携し、主体的に取り組む避難所体験学習を行い生徒の防災への意識も高まった。教職員においても、課題を抱えた生徒や不登校生徒への向き合い方を学び、不登校生の改善につながった。今後も、人権・命をテーマに、子どもたちの「心」に寄り添い未来を生き抜くための教育研究を推進することを期待する。</p>
		<p>3. 継続研究（3年目）</p>